

プロフィール

芝 祐靖（雅楽演奏家・研究家、作曲家）

Sukeyasu SHIBA, Gagaku (composer and musician)

1935年8月13日東京生まれ。奈良系の伶人の家に生まれ、宮内庁楽部予科・本科を経て、楽生科に入学。横笛、左舞、琵琶、古代歌謡などを修め、1955年卒業。1955年～1984年、宮内庁楽師（総理府技官）を務める。宮内庁退官後は、横笛演奏を中心とした活動を行う。1985年伶楽舎を結成、以来、音楽監督を務めた。

古典雅楽の演奏、現代雅楽、現代邦楽の作曲・演奏のほか、雅楽廃絶曲の復興も手がけた。国立劇場が行った正倉院収蔵楽器復元事業にも携わり、楽器の復元その他、復元楽器のための作品を数多く作曲した。宮内庁楽部在職中の1959年には、皇太子殿下（現上皇陛下）ご成婚にあたりオーケストラ作品「御成婚祝典序曲」を作曲。この曲を含む洋楽器のための作品は2016年にCDにまとめられた。

宮内庁楽部在職中に、宮内庁楽部アメリカ公演（1959年）、ヨーロッパ公演（1970年・1976年）に参加。1986年以降は、ソロ、伶楽舎ほかのアンサンブルで数多くの海外公演を行い、古典・現代雅楽の紹介につとめた。1998年の長野冬季オリンピックの開会式では「君が代」を演奏、世界中に雅楽の響きの魅力を伝えた。2010年ミュージック・フロム・ジャパン 35周年記念公演では特集「芝祐靖・雅楽の宇宙」が生まれ、ニューヨークとワシントンD.C.で公演、絶賛を博した。

近年では、子どものための雅楽作品を創作、伶楽舎の全国小中学校公演にも自ら参加するなど雅楽の普及活動に熱心に取り組んだ。国立劇場主催公演には開場（1966年）以来数多く出演、作曲作品もたびたび演奏されており、2016年の国立劇場開場50周年記念雅楽公演では、芝祐靖作品が特集された。

2003年より日本藝術院会員。2011年文化功労者。2017年文化勲章受章。

2019年7月5日、東京都の自宅にて永眠。享年83歳。

●受賞・顕彰等

- 1963年度 芝祐靖作曲「舞楽風組曲」(日本放送協会)、第18回文化庁芸術祭奨励賞受賞
- 1970年度 芝祐靖作曲「横笛三章」(日本放送協会)、第25回文化庁芸術祭優秀賞受賞
- 1975年度 芝祐靖作曲「古代歌謡による『天地相聞』」(日本放送協会)、第30回文化庁芸術祭優秀賞受賞
- 1987年度 第38回芸術選奨文部大臣賞「古典芸術部門」受賞
- 1991年度 第12回松尾芸能賞(邦楽)優秀賞受賞
- 1993年度 第5回飛騨古川音楽大賞特別功労賞受賞
- 1997年度 第27回エクソンモバイル音楽賞(現モバイル音楽賞)「邦楽部門」受賞
- 1999年度 紫綬褒章受章、第19回伝統文化ポラ賞受賞
- 2001年度 第20回中島健蔵音楽賞特別賞受賞
- 2002年度 第59回恩賜賞・日本芸術院賞受賞
- 2009年度 旭日中綬章受章
- 2011年11月3日 文化功労者顕彰
- 2017年11月3日 文化勲章受章

●著書、作曲作品が収録されているCD

- 1997年楽譜集「廃絶曲復曲楽譜集『遠楽の復曲』」(龍鳴舎)
- 1990年CD「雅道 芝祐靖 笛の世界」(日本コロムビア)
- 1992年CD「天竺からの音楽」(日本コロムビア)
- 1995年CD「招杜羅紫苑」(日本コロムビア)
- 2011年CD「芝祐靖の音楽～敦煌琵琶譜による音楽」
(日本伝統文化振興財団)
- 2011年CD「芝祐靖の音楽～古典雅楽様式による雅楽組曲『呼韓邪單于』」
(日本伝統文化振興財団)
- 2016年CD「芝祐靖の音楽～オーケストラ作品集『幻遙』」
(日本伝統文化振興財団)
- 2016年CD「子どものための音楽～ポン太と神鳴りさま」(伶楽舎)
- そのほか、監修した書籍・CD・DVD、演奏で参加したCD多数

WEBサイト <https://sukeyasushiba.b-sheet.jp/>